

平成 26 年度京都府立峰山高等学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○ 京都府北部の中核校として、伝統を継承しながら高い理想を求め続け、地域に信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>○ 教育スローガン（校是）、教育方針、教育目標及び求める生徒像の具現化のため、全教職員が一体となって取り組む。</p> <p>○ 全教育活動をとおして、生徒と教職員がともに成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートの各目標値はほぼ達成し、質問「入学して良かった」へは95%以上の生徒から肯定的回答を得た。 ・授業アンケートの「授業満足度」は3.3/4.0であり、目標値3.2以上を達成した。 ・府立高校特色化事業を活用した国際交流会、国際講演会等さまざまな取組を通して国際理解が深まった。 ・教職員による朝の校門指導は、生徒の規範意識向上に繋がった。 ・生徒会中心に京丹後市主催丹後建国1300年記念事業等地域と連携した5つの取組を行った。 ・厳しい社会状況の中、早い段階で就職内定率100%を達成した。 ・国公立4大へは推薦7名を含め、延べ33名が合格した。 ・特別支援学校との連携等教育相談機能の充実に取り組んだ。 ・峰高だよりは年間18回発行、お知らせメールは80回配信、その他各種たよりの発行等により積極的広報活動を行った。 ・夏季面談はPTA共催のもと9割を超える保護者と面談を行った。 ・PTA総会を日曜日開催とし、参加者は昨年度より4割増となった。 ・学校公開の対象を広げ地域住民からの参加を得た。 ・各種資格試験、検定へは1000名を超える生徒が挑戦した。 ・地域の企業と連携した技術講習会等を積極的に行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動100への積極的参加と科学の教室に参加しやすい環境づくり ・5分前登校の生徒への意識付けと日常の啓発活動の推進 ・自主学習定着への組織的取組と授業の質の向上 ・生徒指導に係る効果的な教職員研修会等の実施と学年部との連携強化 ・ボランティア活動、生徒会活動への積極的広報 ・部活動加入率向上への効果的な取組 ・進路指導における学年部との連携強化と地元を含めた新規求人の開拓 ・タイムリーな進路情報の提供 ・キャリアガイダンスの早期取組と事業の実効性の点検 ・生徒の保健室利用についての検討と校内美化の推進 ・読書週間を活用した読書活動の推進 	<ol style="list-style-type: none"> 1 府立高校特色化事業の取組等を通して国際社会に貢献できるリーダーを育てる。 2 授業規律、自主学習習慣の定着及び授業改善に取り組み、学習の質の向上を図る。 3 高い理想を持って将来を展望し、主体的に自己の進路実現を図ろうとする態度と力を育てる。 4 人権・規範・美化意識を高めるため、全教職員が一致した指導を行う。 5 部活動、特別活動の一層の活性化を図り、学習との両立を強化する。 6 生徒理解を深め、個に応じた支援を行う。 7 多様な広報活動等により家庭、地域との連携を密にする。 8 地元産業界との連携等により、ものづくりへの意識を向上させる。

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
府立高校特色 化事業「グロー バルネットワ ーク京都」	アカデミックミネ・プロジェクトに よる学力の向上	・各種コンテストへの参加、検定受検を促す。 【目標値：参加、受検人数延べ800名以上】	B	B	・参加者数は各種コンテスト等1047 名、「科学の教室」77名、高大連携 事業は34名であった。参加啓発と目 標値の検討が必要である。 ・著名な2名の卒業生を招き、キャリ ア教育講演会を実施した。タイ高校生 3名との交流会、6名の留 学生を招 いての国際交流会を実施 した。 ・地域活動への参加は63事業に留ま り、一層の啓発が必要である。
		・「科学の教室」への参加者を増加させる。 【目標値：参加延べ人数100名以上】	B		
		・高大連携事業への参加を促す。 【目標値：参加延べ人数50名以上】	B		
	コミュニケーション・プロジェクト によるコミュニケーション能力の向上	・卒業生や企業人、留学生と交流する。	B		
	コミュニティ・プロジェクトによる 社会貢献意識の向上	・「地域活動100」と題し、地域と一体となった取 組を推進する。 【目標値：地域活動参加事業数100以上】	C		
学習指導 (学力向上)	主体的学習態度の育成	・生徒会との連携や毎月1回の「ノー遅刻デー」 設定等により始業5分前登校を徹底させる。 【目標値：1日平均遅刻者数6.5名以内】	C	B	・1日の平均遅刻者数は7.1人であっ た。各分掌が連携し、特に常習的遅刻 者の対応が必要である。生徒アンケート は学力向上の取組が91%、きめ細か な学習指導が84%の肯定率、授業満足 度は3.3~3.4/4.0であり、目標値を上 回ると共に昨年度より上昇した。1日 の平均自主学習時間は2時間に至ら なかったが、1、3年生で向上が見ら れた。さらなる意識付けと学習習慣の 定着が課題である。 ・公開授業は効果的であった。教職 員研修会のデータ分析から学力中 間層の学力向上が本校の課題である ことが明らかになった。
		・各学期毎の授業規律週間を中心に、生徒の学習 意欲を喚起する。 【目標値：〈生徒アンケート〉生徒の学力向上の 取組が充実 肯定率85%以上】	B		
		・各教科からの課題と個別指導の充実により、学 習意欲を高める。 【目標値：自主学習時間調査平均1日2時間以上 】	B		
	教科指導力の向上	・年2回の公開授業週間及び教職員研修を効果的 に運用する。 【目標値：〈生徒アンケート〉生徒一人一人に応 じたきめ細かな学習指導 肯定率80%以上】 【目標値：〈授業アンケート〉授業は満足 全体 平均3.2/4.0以上】	B		

生徒指導	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 定期検査と毎朝の校門指導により服装、頭髪指導を徹底する。 【目標値：頭髪指導生徒数クラス1名以内】 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 平均頭髪指導件数は0.9名、指導件数は13件、いじめ事象件数は0件であった。問題事象は減少し、落ち着いているが、服装、頭髪指導、校外での交通マナー等、日常的な指導が課題である。学校全体の統一指導が課題であり、効果的な研修の設定が必要である。また、学年部と連携した校門指導の在り方も検討すべきである。いじめ事象へは早期発見、早期対応で重大事象に至ることはなかった。SNSの危険性についての教職員研修を行い、理解が深まった。 生徒会主催の自主活動は4件実施した。新たな取組により、新入生の部活動加入率は86%と向上したが、継続出来ない生徒も見られた。ボランティア参加者は127名、増加単位取得者は7名に留まった。広報及び登録者を活用した地域活動等、参加啓発の工夫が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> 学年部と生徒指導部との連携を密にし、問題事象の未然防止に努める。 【目標値：生徒指導件数1桁以内】 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> 各学期ごとの生活アンケートにより、いじめ事象の未然防止に努める。 【目標値：毎学期のアンケートで、いじめ事象件数0件】 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> 研修会による教職員間の意思疎通を図る。 【目標値：年間2回実施】 	B		
生徒指導	特別活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 通常の生徒会行事に加え、生徒会主催の自主活動による取組を実施する。 【目標値：年間5つ以上の取組を実施】 	C	B	
		<ul style="list-style-type: none"> 学年部、生徒指導部が連携し、部活動の加入率を向上させる。 【目標値：新入生部活動加入率80%以上】 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動参加者の増加に向けた広報活動を充実させる。 【目標値：ボランティア参加者実人数120名以上、増加単位取得30名以上】 	B		
進路指導	希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 入試、就職情報をタイムリーに提供する。 学年部、進路指導部、教科の連携を強化する。 【目標値：就職希望者全員内定】 【国公立大学合格者延べ40名以上】 【2年対象進路部面談大学、短大、医療系学校志望者全員実施】 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路情報の提供は適切であった。計画的な指導が実を結び、就職希望者は1次で全員が内定した。国公立大学合格は延べ36名であった。 卒業生等9名の外部人材を招聘し、啓発ガイダンスを行った。キャリア教育の意義について一層の啓発が必要である。また、学年部と進路指導部の連携強化が必要である。
	系統的キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生等外部人材を活用した啓発ガイダンスを効果的に実施し、事後の評価・点検を行う。 【目標値：外部人材の招聘10名以上】 	B		
人権教育	人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 教科と連携した学習や取組を工夫する。 【目標値：〈生徒アンケート〉生命や人権を尊重する指導が適切 肯定率90%以上】 	B		<ul style="list-style-type: none"> 人権通信を8回発行した。生徒アンケートの人権を尊重する指導への肯定率は89%であった。

健康・安全 指導	心身の健康を求める生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 保健だより等の発行により、積極的に啓発する。 【目標値：生徒向け年間12回以上、教員向け10回以上発行】 不調を訴える生徒に適切に対応する。 【目標値：保健室来室者数全生徒数の60%以内】 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 保健だよりを生徒向けに14回、教職員向けに13回発行した。保健室来室者数は全生徒数の52%であった。保健だよりは効果的である。 生徒アンケートの美化清掃への肯定率は77%で昨年度に引き続き厳しい結果となった。生徒及び教職員の意識改革が大きな課題である。委員会活動は週1回の登校指導と随時、校内巡視を行った。 教育相談会議は10回実施し、情報交流を密に行った。教育相談への教職員全体の意識は向上しており、積極的にSCを活用した。
	環境美化に協力し、安全な生活を求める生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動や行事を活性化させる。 【目標値：〈生徒アンケート〉美化、清掃が行き届いた教育環境 肯定率85%以上】 委員会活動による安全指導を強化する。 【目標値：週1回の登校指導と校内巡回】 	C	C	
	教育相談関係生徒の実態把握と適切な支援	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談会議を適切に開催する。 【目標値：10回の定例会議開催】 カウンセリングを受けやすい環境をつくる。 【目標値：月2回のカウンセラーとの打合せ】 	A	A	
			A		
図書・情報活動	本を読み親しむ生徒を増やす	<ul style="list-style-type: none"> 図書館だよりや特別展示等の広報活動や、読書週間の取組を通じ貸出数を増加させる。 【目標値：一人年間5冊以上】 	C	<ul style="list-style-type: none"> 図書館だよりを12回発行し、活発な広報活動が行えた。図書館利用者数は昨年度より増加したが、貸出冊数は目標を大きく下回った。新たな啓発活動が必要である。 視聴覚機器活用アンケート（教職員対象）の肯定率は69%であった。積極的な活用が来ている。 校内LANの整備など情報セキュリティ対策が課題である。 	
	情報視聴覚機器を活用した教育活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 情報視聴覚機器を授業、講演会、峰高祭等において効果的かつ積極的に活用する。 【目標値：〈峰高祭生徒アンケート〉視聴覚機器の活用が充実 肯定率80%以上】 	B		B
	校内LANを運用・活用した教育活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ意識と情報活用能力を高める。 【目標値：教職員研修 1回以上開催】 	B		
家庭・地域連携	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> HPの更新を随時行う。 「峰高だより」を月1回以上発行する。 【目標値：〈保護者アンケート〉広報活動が充実 肯定率80%以上】 【目標値：峰高だよりの発行 年間12回以上】 	B	<ul style="list-style-type: none"> 峰高だよりは16回発行、お知らせメールは93回配信した。保護者アンケートは広報活動が80%、家庭連携が73%の肯定率であった。夏季面談はPTA共催のもと96%の保護者と面談することが出来た。 HP、峰高だより、お知らせメールによる積極的広報、配信が行えた。登録数の増加及び新聞等活用した広報が課題である。 	
	地域・保護者・PTAとの連携推進	<ul style="list-style-type: none"> 三者面談、PTA総会、PTA事業、学校祭等への積極的な参加を促す。 お知らせメールにより、学校の様子をタイムリーに保護者に伝える。 【目標値：〈保護者アンケート〉家庭と担任や学校との連携 肯定率75%以上】 	B		B

特色ある専門 学科	工業系専門学科教育の推進	・社会人講師の積極的活用を行う。 【目標値：社会人活用 3年生4時間以上 1、 2年生8時間以上】	B	B	・社会人講師の活用は予算の関係で縮小した。予算は流動的であり、数値目標の検討も必要である。着物デザインコンクール等、積極的に応募し入賞した。広報活動が課題である。関連企業、関連学科への就職、進学は一定数達成できた。・京都産業21の最先端機器の活用等、高いレベルの技能に触れた。
		・積極的に作品展への応募等を行い、ものづくりへの意識・意欲を高める。	B		
		・関連企業、関連学科へ就職、進学する生徒を育てる。	B		
	創造的技術者の育成	・地元企業との連携強化により高いレベルの技能習得とものづくりへの知識と意欲を高める。	B		

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション英語Ⅰは授業形態上ざわつきが見られたが、どのクラス共に熱心に授業に取り組んでいた。 ・北部の地域活性化のためにも教育は重要なポイントである。 ・国際化、グローバル化は理解できるが、地元に戻るような教育も必要であり、当然ながら地元で働くための環境整備は必要である。 ・保護者への広報は重要であり、引き続き幅広い広報に努めるべきである。 ・靴のかかとを踏む生徒なども見受けられなかった。 ・ゴミの目立つクラスが見受けられた。 ・カバン置き場など教室の整理整頓の工夫ができないか。 ・教員の適材適所の配置など中学生に選ばれる学校作りに努めて欲しい。 ・気遣い、心配りができるように育てて欲しい。 ・学校評価アンケートの学校に対する満足度は保護者、生徒共に95%以上と非常に高く、また授業アンケート結果の授業満足度も年々上昇してきており、日々の熱心な教育活動の様子が窺える。 ・活発な広報活動が行われていると感じる。 ・生徒は3年間の学校生活を通して着実に成長している。 ・府の課題研究発表会では、他校の発表に、地域との強いつながりを感じる印象深い内容のものがあつた。峰山高校でもさらなる工夫が必要と感じた。 ・学校評価アンケートから、学校での日々の取組の成果を感じる一方で、保護者の教育力を高める必要性を強く感じる。全てを学校に丸投げしている保護者が見られる。遅刻や送迎に係る近所からの苦情などは保護者の指導、モラルの問題である。 ・スマートフォンの学校への持ち込みは禁止であるが、分校同様に持ち込み可とし、使い方を指導した方が社会の流れに合っているのではないか。
-------------------------	---

次年度に 向けた改善の 方向性	【全体】	① 各領域の重点目標及び具体的方策の焦点化 ② 目標値の検討
	【特色化事業】	③ 各種コンテスト等及び地域活動100への参加啓発、目標値の検討
	【学習指導】	④ 常習的遅刻者への対応 ⑤ 自主学習習慣の定着 ⑥ 学力中間層生徒の学力向上
	【生徒指導】	⑦ 校内外の継続的な服装、頭髪及び交通マナー指導（学年部との連携） ⑧ 共通理解を図る効果的な教職員研修会 ⑨ 生徒会による自主活動の活性化 ⑩ ボランティア活動への意識啓発、広報及び登録者を活用した地域活動
	【進路指導】	⑪ キャリア教育の啓発 ⑫ 学年部との連携
	【人権教育】	⑬ 人権意識の向上
	【健康・安全指導】	⑭ 教職員、生徒の美化清掃への意識改革
	【図書・情報活動】	⑮ 貸出冊数増加への啓発及び目標値の検討 ⑯ 情報セキュリティ対策の向上
	【家庭・地域連携】	⑰ 効果的な広報活動 ⑱ 家庭との連携
	【特色ある専門学科】	⑲ 数値目標の検討 ⑳ 取組内容の校内を含む広報活動